

福祉サービス第三者評価結果

事業所名 相模原市立上矢部保育園

発効：平22年3月26日（平成25年3月25日まで有効）

社団法人神奈川県社会福祉士会

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

事業所基本事項

フリガナ	カミハラシツ カミヤベ ホイクエン
事業所名 (正式名称を記載)	相模原市立上矢部保育園
事業所住所 最寄駅	〒229-0007 相模原市矢部新町3-1 JR 横浜線 矢部駅下車 徒歩5分
事業所電話番号	042-755-3297
事業所FAX番号	042-752-4003
事業所代表者名	役職名 園長 氏名 荒川 祐子
法人名及び 法人代表者名	法人名 相模原市 法人代表者氏名 相模原市長 加山 俊夫
URL	
e-mail	
問合せ対応時間	8:30~17:00

事業所の概要1

開設年月日	昭和52年4月1日
定員数	120名
都市計画法上の用途地域	第1種住宅地域
建物構造	鉄筋コンクリート造り 一部2階建て
面積	敷地面積(1,650)㎡ 延床面積(716)㎡

事業所の概要2(職員の概要)

総職員数	47名 (平成22年1月現在)
うち、次の職種に該当する職員数	園長 (常勤: 1名) 保育士 (常勤: 17名、臨時・非常勤: 20名) 調理員 (常勤: 2名、非常勤: 5名) その他 (庁務作業員 2名)

事業所の概要3(受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	生後8週目~小学校就学未満	
延長保育の実施	有	備考:
休日保育の実施	無	備考:
一時保育の実施	有	備考:
障害児保育の実施	有	備考:
病後児保育の実施	無	備考:

保育の方針

意欲と思いやりのある子ども

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

1. 総合コメント

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

優れている点・独自に取り組んでいる点：

日頃より複数の担任が関わり、保育士が協力し合っている。子どもたちの個々の発達や個性を把握して関わることで情緒の安定を図っている。オープン保育では、クラスを超えて保育士が臨機応変に関わっている。子供が不安定な時には1対1でスキンシップを図っている。

日常的に異年齢の子どもたちがコーナー遊びをしたり、交流している。異年齢保育の中で他者を認めたり、自分や相手を大切に作る気持ちや思いやりが育つように保育している。縦割り保育の中で取り組むことは、子どもたちが自分たちでグループを決め、役割を決めている。年長の子どもが中心になって活動している。幼児クラスのランチルームでは、食事時間に幅をもたせ、子どもたちが自分のペースで食事ができるように工夫している。

保育室の中にコーナーを作り、子どもたちが遊びたいもので自由に遊べるようにしている。園庭でも教材庫から子どもたちが自分で遊具を出し、自由に遊んでいる。出来たものを認めたり、飾ることによって意欲を高めることを目指している。自分で作った泥団子をしまえるようにしたり、作品をその場で飾ってあげたりしている。紙・廃材などいろいろな素材を置くようにしている。

年齢に応じた手伝いや当番活動を通して、協調性を育み、人の役に立つ喜びを経験できるようにしている。ランチルームの当番では、テーブルや椅子を整えるところから始まり、テーブル拭き、布巾やお茶配り、給食運び、給食開始の放送まで、子どもたちが行っている。

平成17年、厚生労働省の食育推進モデル事業の保育園としての取り組みをきっかけとして、食育実行委員会を作り、全職員が役割を持ち園全体で食育に力を入れている。食育コーナーでは、食育モニターを募り、家庭での食の取り組みを写真入りで紹介している。食育まとめ集も作成している。

園は公園に隣接しており、樹木も近くに多く自然に恵まれている。木の実で工作をしたり、生き物を飼育したり、草花や野菜を育てたりする中で、優しさや探究心を育てている。散歩の途中や公園で地域の人に挨拶をしたり、交流している。

外国人の保護者に「英語で遊ぼう」というプログラムの講師を依頼し、外国語に触れる時間を設け、子どもたちが外国に興味を広げられるようにしている。

事故検討委員3名により、1ヶ月分の事故怪我報告書を集計し、怪我や事故の起こりやすい時間や場所の原因分析を行い、職員間で共有している。リスクマネジメントの取り組みにより、発生件数の減少につながっている。

地域担当職員を中心に、全職員で地域の子育て支援を行っている。年間計画を作成し、交流保育や保育園行事への参加を呼びかけている。コミュニティ保育グループの相談・支援を行い、近隣の保育園と合同で育児講座を開催している。

評価領域ごとの特記事項

1	人権への配慮	<p>園児や保護者に対する適切な言葉遣いや態度については、「上矢部保育園保育マニュアル」に定め、職員会議での話し合いや、接遇に関する外部研修の報告等を行うことで、共通認識をもって保育に取り組んでいる。外国籍の保護者には、配布物をひらがな表記にしたり、口頭での個別の伝達を日頃から心掛けている。</p> <p>相模原市個人情報保護条例が制定されており、職員会議等での周知や園内に個人情報に関するパンフレットを掲示し、職員の意識の徹底をはかっている。保護者には、懇談会等で説明している。個人情報を含む書類は書庫に施錠して保管し、「持ち出し管理票」にて取り扱っている。</p> <p>実習生やボランティア、見学者の受入れにあたっては、受入れマニュアルを整備し、プライバシーの保護について説明するなどして、徹底をはかっている。</p>
---	--------	---

2	<p>利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援</p>	<p>家庭との連絡・情報交換は、「上矢部保育園保育マニュアル」で手段・方法等を定め、連絡帳や「のびのびカード」、園だより、クラスだよりのほか、送迎時に保護者が確認できるように、その日の様子や連絡事項をホワイトボードに写真入で掲示し、一日の保育状況を知らせるなど、連絡を密にしている。保護者から休み中の内容も知りたいとの希望があり、掲示はノート形式とし、いくらでもさかのぼって確認できるように工夫している。クラス懇談会を年2回実施し、保護者の意見・意向を把握している。個人面談は期間を5～7月までの3ヶ月間設定し、保護者の都合に柔軟に対応できるよう工夫している。また、個人面談は必要に応じて随時、行っている。</p> <p>運動会やおたのしみ会等の保護者参加の行事の後には、アンケートを実施している。また、保護者が意見や要望等を出しやすいように「ご意見ボックス」を設置し、日頃より保護者の希望や意向の把握に努めている。</p>
3	<p>サービスマネジメントシステムの確立</p>	<p>苦情への対応マニュアルや様式を定め、苦情受付担当者及び苦情解決責任者、第三者委員の設置を園内に掲示し、保護者に知らせている。消毒薬や洗剤等の危険物は、「薬品、危険物管理チェック表」により管理している。</p> <p>園児が触れるおもちゃ、タオル、布団、砂場等の物品の除菌・消毒、遊具の安全点検については、「園児健康管理マニュアル」、「安全チェックリスト」に管理方法等を定め、点検実行記録をつけて、衛生面・安全面の管理に努めている。</p> <p>インフルエンザ等の感染症の情報は随時、掲示や配布物で保護者へ情報を提供している。</p> <p>防火・防災・防犯対策については、「上矢部保育園消防計画」に基づき訓練を実施している。実施後は、職員会議等で反省と見直しを行っている。不審者対応訓練については、外部講師を招いて実施している。</p>
4	<p>地域との交流・連携</p>	<p>地域担当職員を中心に、全職員で地域の子育て支援を行っている。年間計画を作成し、「上矢部保育園で遊ぼう」、「みんなの広場」、「上矢部キッズ」、「親子でいっしょに遊びませんか」等、地域子育て支援事業を多数、行っている。年間を通して園庭を開放し、絵本の貸し出しも行っている。コミュニティ保育グループの相談・支援を行い、育児相談はいつでも受け付けている。また、保育士が中央公民館や子どもセンターの「子育てふれあい講座」の講師を務めている。</p> <p>地域の様々な人々とのふれあいや世代間交流の機会として、実習生や小・中・高校生の体験学習の受入れを行い、夜間保育所との定期的な相互交流を行っている。</p>
5	<p>運営上の透明性の確保と継続性</p>	<p>年度末に1年間の行事やクラス毎の保育内容について全職員で振り返りを行い、課題や改善点の整理を行って次年度につなげている。保護者アンケートの結果も参考にしている。自己評価の結果として、運動会での園児席を変更したこと、ホワイトボードでのお知らせをノート形式に変えたことなどの改善を行った。</p> <p>保育園の運営や事業内容について、地域からの理解が得られるよう、地域向けの掲示板を設け「上矢部保育園で遊ぼう」等のチラシを掲示している。チラシやパンフレットの配布物も置いている。</p> <p>保護者に保育園での園児の様子を見てもらう機会として、保育ウィークや公開保育給食試食会を開催していることを、年間行事予定表等で情報提供している。</p>
6	<p>職員の資質向上促進</p>	<p>保育理念や方針については、「上矢部保育園保育マニュアル」に明示し、園内にも掲示している。内容は職員会議で周知して、基本姿勢の統一をはかっている。職員一人ひとりがマニュアルを所持している。</p> <p>相模原市保育課による「保育所職員研修計画」に基づき、内外研修を実施・受講している。外部研修の内容は職員会議で報告するほか、研修報告としてファイルし、いつでも内容が確認できるようにしている。</p>

2. 評価項目に基づく評価の結果

大項目 1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

大項目 1 全体 (調査確認事項全 80 事項) を通してのサービスの達成状況	100%
---	------

大項目 1 の内容(概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

大項目 2 保育内容の充実

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと保育士とのかかわりにおいて、子どもの情緒の安定をはかることや、順調な発育・発達を促すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>複数の保育士が協力し合い、個々の発達や個性を把握して関わることで情緒の安定を図っている。 子どもが不安定な時には1対1でスキンシップを図ったり、家庭との連携を密にすることで安定を図っている。 個別配慮の必要な子においては、職員会議、乳幼児の話し合い、ケース会議で職員間の共通理解を深めている。</p>	<p>保育士の協力として、日頃より複数の担当が関わり、オープン保育ではクラスを超えて保育士が臨機応変に関わっていることを、オープン保育の様子などで確認した。 子どもが不安定な時に1対1で関われるように、保育士同士で連携して支援していることを、保育の様子や保育日誌などで確認した。 個別配慮の必要な子どもへの関わり方として、保育士が情報交換を密にし、情報を共有していることを、ケース会議録や職員会議録にて確認した。</p>
<p>子ども同士のかかわりにおいて、個の違いを認めあうことや他者と自分を大切にすることを育てるようするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>異年齢保育の中で他者を認めたり、自分や相手を大切にすることが育つよう関わっている。 個別配慮の必要な子どもと関わる中で、発達の違いが認め合えるよう援助している。 子ども同士のトラブルの中で、子ども一人一人をしっかり受け止め、自分が大切にされているという気持ちが味わえるような保育をしている。</p>	<p>異年齢保育の関わりとして、日常的に異年齢の子どもたちがコーナー遊びをしたり、交流したりしていること、大きな行事の中でも、そのような関わりが活かせるような内容を考え、提供していることを、オープン保育の様子や保育日誌にて確認した。 保育士の関わり方として、子どもの発言に対して、保育士が助言し、子どもの話をじっくり聞くようにしていることを、保育日誌にて確認した。 保育士の関わり方として、異年齢交流で、子どもたちが他者に対する思いやりの気持ちを育むことができるよう配慮していることを、給食当番の様子で確認した。</p>
<p>子どもと社会とのかかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>散歩や行事などを通して、地域の人たちと接する機会を作っている。 年齢に応じた手伝いや当番活動を通して、協力することや人の役に立つことの経験や喜びを実感できるようにしている。 わかな会、近隣の保育施設、地域親子との交流を通し、様々な人と触れ合う機会を作っている。</p>	<p>地域の人たちとの交流として、散歩の途中や公園で地域の人に挨拶をしたり、園庭開放で来園した親子と一緒に遊んだりしていることを、園庭での様子や保育日誌などで確認した。 手伝いや当番活動として、幼児はプール掃除や給食当番を行っていることを、給食当番の様子や保育日誌にて確認した。当番活動は、プール掃除や落ち葉拾い、草取り、給食当番などで、積極的に活動するとともに、年下の子どもへの思いやりも育っていることを、給食当番の様子や保育日誌にて確認した。 地域との交流として、食育のクッキングで「わかな会(食生活改善推進団体)」の会員と交流していること、夜間保育をしているドリーム保育園と交流して一緒に遊んでいることを、保育日誌にて確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>親しめるような手遊び、歌遊びを用意して子どもと一緒にやりとりを楽しめるようにしている。 様々なごっこ遊びを通して、言葉のやりとりを楽しめるような設定をし、環境を整えている。 様々な活動の中で、自分の意見を言ったり、相手の意見を聞いたりして言葉のやりとりを楽しめるようにしている。</p>	<p>手遊びや歌遊びは毎日行い、保育士は研修を重ね、新しいことを報告しあってスキルを磨いていることを、保育室の様子や保育日記にて確認した。 言葉のやりとりが楽しめるよう、子どもの言葉のやりとりで、楽しいものがあると、メモしたり、周りの子どもたちに知らせたりしていること、保育士が見本を見せるように、子どもの話をしっかり聞くようにしていることを、指導計画にて確認した。 言葉のやりとりが楽しめるよう、お店屋さんごっこ遊びなどでは、保育士が絵入りメニューを作って渡すなど、子どもたちの遊びが発展するように支援していることを、オープン保育の様子などで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>年齢にあった絵本をコーナーに用意し、子ども達が自由に読むことが出来るようにしている。また、素話・絵本を見たり聞いたりすることを楽しんだり、他国の言葉を知り、話すことも楽しめるようにしている。 子ども達が感じたこと、思ったこと等を話せるよう質問を投げかけるなどして、自分の言葉で伝えられるようにしている。 生活や遊びの中で、大勢の前で発表したり、場面に応じた言葉を使えるようにしている。</p>	<p>絵本コーナーとして、玄関ホールに「ゆめとしゃかん」と名付けた絵本コーナーを設置し、自由に読んだり貸し出ししたりしていること、保育室や食育コーナーにも絵本を置いていることを、「ゆめとしゃかん」や保育室の様子などで確認した。ボランティアによる読み聞かせや、素話を聞く機会を毎月、設けていること、毎月、外国人である保護者と「英語で遊ぼう」という時間を作り、英語の歌などを楽しんでいることを、保育日記で確認した。 保育士の関わり方として、保育士が子どもの話をじっくり聞き、話を引き出す雰囲気を作っていることを、保育日記で確認した。 子どもたちの活動として、行事や当番で、皆の前で話す機会を作っていることを、保育室の様子や保育日記、給食の様子にて確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>体を動かして表現することを楽しめるようにしている。 遊びたいもので遊べるよう、各コーナーを設置し、環境を整え、できたものを認めたり、飾ったりして表現したい気持ちを育んでいる。 オープン保育の中で、色々な素材を準備し、作ったり描いたりできるようにしている。</p>	<p>体を使った活動として、計画の中にリズム遊びや運動を多く取り入れていることを、園庭や保育室での子どもたちの様子や保育日記などで確認した。 コーナーの設置は、保育室の中にコーナーを作り、子どもたちが遊びたいもので自由に遊べるようにしていること、園庭でも、教材庫から子どもたちが自分で遊具を出し、自由に遊んでいること、出来たものを認めたり、飾ることによって意欲を高めることを目指し、自分で作った泥団子をしまえるようにしたり、作品をその場で飾ってあげたりしていることを、コーナーの様子や保育日記などで確認した。 身近な素材として、紙・廃材などいろいろな素材を置くようにしていること、子どもたちは、友だちの様子を見ながら、遠足の絵などを一定期間内にできるように取り組んでいることを、教材庫の様子などで確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなで一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>子ども達が様々な遊びの中から遊びたいものを選択できるように遊びを提供している。 運動会や発表会では、みんなで協力し取り組むことで意欲を育んだり、自分で好きなものを選択して、表現する喜びを味わえるようにしている。 様々な身近な素材や自然物、用具を準備し、触れたり、工夫して作ったりする経験が出来るようにしている。</p>	<p>子どもたちの活動の様子として、子どもたちが自由遊びの中でも、仲間を見て、自分がやるべきことに取り組むようになってきていること、保育室にどんぐりのリースが並べて飾られ、外で遊ばず、1人で作っている子どもがいたことを、保育室の様子や保育日誌などで確認した。 子どもたちの活動の様子として、縦割り保育の中で取り組むことは、自分たちでペアをきめ、役割を決めていること、年長の子どもが中心になって活動していることを、保育日誌やクラス便りで確認した。 身近な素材として、野菜のスタンプ、どんぐりや落ち葉などを使って、季節ごとに、自然を感じながら楽しんでいることを、園庭での様子や保育日誌などで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>個々の発達に応じ見守ったり介助しながら、巧技台など様々な運動遊びを経験させている。 年齢に応じた絵本・紙芝居・パネルシアターなど、視聴覚教材を使い、親しむ機会を持ったり、絵本の貸し出しを行っている。 発見する喜びや疑問に思う気持ちに共感し、保育士や友だちとのやりとりを楽しみながら興味や関心を持てるようにしている。</p>	<p>運動遊びとして、運動会などでの取り組みだけでなく、日常の遊びでも、ホースの輪を使って「けんぱ」をしたり、跳んだりするなど、運動機能の発達を促していることを、保育室の様子や保育日誌、写真で確認した。 視聴覚教材として、絵本・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・ペープサートなど、その時にふさわしい教材を使っていること、保育士の手作り教具もあることを、「ゆめとしゃかん」や手作り教具にて確認した。 子どもたちの活動として、オクラを育てて収穫して食べたり、スタンプを作って遊ぶなど、ひとつの素材からいろいろな保育を行っていることを、オープン保育の様子や保育日誌にて確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>戸外での活動の中で、季節により自然や人間の生活に変化があることを気付かせるようにしている。 小動物や昆虫を観察したり、野菜や植物を子ども達と共に大切に育てながら、自然の変化や生命の尊さを伝えている。 子どもの興味や疑問に応じて保育教材を用意し、探索意欲を高めるように環境を整えている。</p>	<p>戸外活動として、夏は水遊び、砂や泥に触れる遊び、冬は氷の観察、球根の水栽培など季節感を育てていることを、保育室の様子や保育日誌などで確認した。 小動物の飼育や植物の栽培として、ダンゴムシやメダカを観察したり、オジギソウ、ヒマワリ、アサガオ、ミニトマト、イネなどを育てていること、メダカは卵から孵化させ赤ちゃんメダカの観察もしたことを、園内の栽培の様子や保育日誌、写真で確認した。 保育教材として、トカゲを見つけた時に図鑑を用意して、知りたいことを調べるなど、子どもの探究心を育てるようにしていることを、保育室での飼育の様子や図鑑などで確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>トイレを気持ちよく使えるように環境を整え、一人一人の排泄の間隔に合わせて声をかけるようにしている。 ランチルーム形式での食事を楽しみながら、食べる時間や食べる量を調整している。 年齢に応じたクッキング活動をしたり、食べ物に関する様々な教材を準備して食事への意欲をもてるようにしている。</p>	<p>トイレの取り組みとして、トイレには絵を貼るなど、行きやすい環境を作り、子どもが行きたいときに行けるようにしていることを、トイレの様子や保育日誌にて確認した。 ランチルームでは、自分の食べる時間や量を自分で確認できるようになることを目指していることを、ランチルームの様子で確認した。 食事への意欲の取り組みとして、給食は無理強いせず、育てた野菜をクッキングで食べるなど、楽しみながら偏食をなくすようにしていることを、食育コーナーや調理計画、食育まとめ集にて確認した。</p>
<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>自分でしようとする気持ちを大切に、意欲をもって身の回りのことが行えるよう個々に合わせた声掛けや関わりをしている。 子ども一人一人の成長・発達に応じて基本的な生活習慣が身につくよう、見守ったり援助したりしている。 保育士の話などを通して食事や休息の大切さを伝えている。ゆったりと食事や休息を取れるような環境を作っている。</p>	<p>保育士の声かけとして、予告をして声かけをし、次に行うことが分かるようにして、ほめたり励ましたりすることで、意欲的に行動できるようにしていることを、トイレでの子どもの様子や保育日誌で確認した。 保育士の関わり方として、子どもたちは育ち方も個性も違うので、あせらずに接するようにしていること、うがいも初めはコップでして、蛇口でもできるようにしたり、箸の持ち方も個別に対応していることを、保育日誌にて確認した。 食事や休息の大切さは、5歳児も入学前の短期間を除き午睡をしていること、5歳児が4歳児を寝かしつけたりしていること、午睡の前はゆっくりできる時間を作るようにしていることを、保育室での午睡の様子で確認した。</p>

大項目3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐくむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>オープン保育や異年齢保育を通して、意欲や自主性を育んだり、思いやりや感謝の気持ちが育つようにしている。 食材への興味・関心が持てるよう、食物を育て収穫する喜びを味わえるようにしている。また、クッキングを通し、自分が作ったものを食べる楽しさや苦手な物も食べてみようという意欲をはぐくんでいる。 様々な人との関わりに興味・関心が持てるよう、地域ボランティアや近隣の保育園との交流をしている。</p>	<p>オープン保育では、園庭で兄弟で遊んだり、乳児の散歩に5歳児がついて行き世話をしたりしていることを、園庭での様子や保育日誌にて確認した。 食物の栽培やクッキングでは、ミニトマトを育てトマトジャムを作ったり、ピーマンやナスを育て炒め物を作ったり、収穫したものをクッキングで食べることにより、野菜嫌いの子どもも食べるようになっていたことを、食育コーナーや写真にて確認した。 地域との交流として、高校生の体験学習では水遊びをして、「お姉さんと着替えたい」などとよくなついていたこと、夜間のドリーム保育園と夕方からの交流を試みていることを、写真にて確認した。</p>
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>乳児保育、延長保育は、少人数による家庭的な雰囲気を重視し、安心できる時間作りをしている。 他機関と連絡を取ったり、個別カリキュラムを作成し、共通理解の上で障害児保育を行っている。 外国籍の保護者には配布物のルビふり、口頭での説明を行い、保育園を身近に感じられるよう配慮している。また、外国語に触れる時間を設け、子どもが外国に興味を広げられるようにしている。</p>	<p>延長保育では、家庭的な雰囲気でゆったりと過ごすことができるようにしていることを、延長保育の計画や延長保育で遊ぶ玩具類で確認した。 特別な配慮を必要とする子どもには、家庭との連絡を密にしたり、巡回訪問相談などを利用したりしていること、情報は保育士で共有していることを、個別指導計画や巡回相談の記録、保育日誌などにて確認した。 外国籍の保護者にはルビ付きの配布物を用意していること、外国人の保護者に「英語で遊ぼう」というプログラムの講師をお願いしていることを、保育日誌などで確認した。</p>
<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関しての特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<p>医師の診断書に基づいて、保護者と共にチェックを行い、アレルギー食を進めている。 個々のリズム、体調に合わせて離乳食を無理なく進めている。 アレルギー疾患のある子には個別対応し、また処方された薬を塗布することで快適に過ごせるようにしている。</p>	<p>除去食についてはチェックをし、調理・保育で連携して、ミスが起きないようにしていること、給食も事務室で摂るなど、他児の給食に触れないようにしているが、ストレスをためないように、例えば遠足のおやつは、その子どもが食べられるものを皆で食べるなど配慮していることを、食事の様子やチェック表などで確認した。 離乳食については、子どものペースに合わせて、家庭と連絡を取り無理なく進めていることを、乳児の保育室での食事の様子や保育日誌にて確認した。 アレルギー疾患のある子どもへの対応として、与薬依頼書に基づき、湿疹やかゆみ止めの薬を塗布していることを、与薬依頼書綴りにて確認した。</p>

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>食に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>ランチルームを設けることで、子ども達が食事時間を自己決定し、主体的に食事を楽しめるようにしている。 食育実行委員会を設け、全職員が関わって食育の推進に取り組んでいる。 食育コーナーを設け、保護者に食育に関する情報を提供している。</p>	<p>幼児保育室のオープンスペースにランチルームを設け、食事時間に幅をもたせ、子どもたちは自分で食事を始める時刻を決め、グループで楽しく食事をしていることを、ランチルームでの食事の様子で確認した。 食育への取り組みとして、クラス代表や地域担当で食育実行委員会を設け、園長、副園長、給食調理員とともに、保育課の栄養士の協力も得て食育に取り組んでいること、平成18年度には、教育研究発表会で発表したことを、食育まとめ集にて確認した。 食育コーナーでは、写真などでクッキングや給食モニターの内容を保護者に提供していることを、食育コーナーや献立表などにて確認した。</p>
<p>家庭とのコミュニケーションに関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>お便り・連絡帳・のびのびカード・ホワイトボード等で日々の保育活動の様子を伝えながらコミュニケーションをとっている。 懇談会・個人面談・育児相談を行い、家庭との連携を密にしている。また、行事のアンケート等で保護者の声を園運営に反映させている。 公開保育・保育ウィークなどで実際の保育の様子を見てもらったり、行事のあった日にデジカメで撮った写真を掲示し、報道として様子を伝えている。</p>	<p>日々の保育の様子は、「お便り」や「連絡帳」、「のびのびカード」で、保育活動の様子を家庭に伝えていること、日々のクラスの様子を伝えるホワイトボードは、欠席しても後から見るができるようにノート形式にしていることを、園内の掲示物やクラス掲示のノートなどで確認した。 家庭との連携については、「個人面談」や「懇談会」、行事に多くの保護者が参加していること、行事のときのアンケートで保護者の声を参考にしていることを、行事のアンケート綴りなどで確認した。 家庭とのコミュニケーションについては、デジカメで撮った遠足の写真を掲示するなど、行事の後はずばやく様子を知らせていることを、園内の掲示物に写真が多く使われていることで確認した。</p>
<p>地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>毎日の園庭開放・図書の貸し出し等の他、支援事業の情報提供を行っている。また、親子遊びの情報提供を公民館・子どもセンターに出向いて行っている。 育児講座の中で親の情報交換や交流の場を提供し、地域の育児力の向上に努めている。 全職員で地域子育て支援の対応を行い、在園児と一緒に活動する場を提供している。同時に離乳食の展示・試食・離乳食相談に応じて、食育の育児支援も行っている。</p>	<p>地域の子育て支援として、毎日、園庭や保育室を開放していること、図書の貸し出しも園児と同じようにできることを、園内の掲示物や地域子育て支援事業報告書などで確認した。 地域の育児力向上への支援として、保育士が中央公民館や子どもセンターの「子育てふれあい講座」の講師を務めていることを、地域子育て支援事業報告書や育児講座レジュメにて確認した。 地域子育て支援について、地域支援担当だけでなく、全職員で対応して、地域の育児力の向上に努めていることを、園内の掲示物や地域子育て支援事業報告書などで確認した。</p>